令和 8 年度 第 2 回萩市立図書館協議会 議事録

令和８年９月１７日（木）
１４：００～１５：００
会場　須佐総合事務所

出席者
協議会委員　的村るみ委員・岡崎祐介委員・杉山恵子委員
（6 名）　浅井智子委員・井上仁奈子委員・阿武知弘委員
教　育　長　池田教育長
事　務　局　教育委員会事務局　岸田局長
須佐総合事務所　中村所長
萩図書館　佐々木館長・森岡副館長・松浦主任主事
須佐図書館　宮内館長・村木主任主事
明木図書館　山本館長・市原司書
田万川中学校図書館　田村館長
学校教育課　西山係長
NPO 萩みんなの図書館　児玉理事長
伊藤副理事長兼事務局長

１．開会のことば（宮内館長）

本日は田万川中学校図書館の見学、そして須佐総合事務所と遠路足を運んでいただき、お礼申し上げる。本日は須佐図書館のことが中心になるが、よろしくお願いする。

２．教育長あいさつ

委員には、公私ともにご多用の中ご出席を賜りお礼申し上げる。
また、平素より、本市の教育行政並びに図書館事業の推進に対し、格別のご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げる。
通常年２回の開催の図書館協議会だが、今年度は、須佐図書館の運営方針を見直すという大きな課題がある中、委員からの色々なご意見をお伺いしたいということで、臨時的に開催させていただく。
６月３日の第１回目の協議会では「須佐図書館のめざす姿」について示し、協議の場を設けた。
今回は、須佐図書館開館時間の見直しを検討するため、令和７年８月１日から令和８年７月３１日までの試行運用期間の利用状況を報告するとともに、須佐図書館の今後の運営方針についてお諮りする。
図書館は、子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の方々に「学び」や「憩い」、そして、「交流の場」を提供できる場として、「ひとづくり、まちづくりの源」であり、「明るく元気で笑顔のあふれる萩市」の実現には、なくてはならない社会教育施設である。
このため、図書館が地域の身近な居場所となり、人と人との交流を生み、地域の文化や学びを支える存在となっていくことが大事である。

最近の子どもたちは小学校5年生ぐらいからスマホを所持している割合が年々増え、中学校3年生になると9割という状況。スマホを使ってSNSをしたり、あるいは動画を視聴したりする時間の割合が非常に高くなっている。その分家庭学習や読書にあてる時間が少なくなり、学力の定着に影響を及ぼす傾向がある。

これからの図書館は学校との連携をしっかり図りながら、子どもたちの豊かな読書活動に貢献していくことが大切であり、そのような図書館の運営を目指したいと考えている。

委員には、本日の議案に対して忌憚のないご意見をいただくようお願いする。

３．会長あいさつ　※会長はリモートでの出席のため副会長あいさつ

本日の内容は須佐図書館の運営方針についてということで、委員一人ずつから意見をお聞きするのでよろしく。

４．議事

森岡副館長　規程により議事は会長が務めることになっているが、会長からの申し出により岡崎副会長に議事進行をお願いする。

議　　長　議事（1）須佐図書館の試行運用期間中の利用状況と今後の運営方針について、事務局から説明をお願いする。

宮内館長　須佐図書館の試行運用期間中の利用状況と今後の運営方針について資料に沿って説明。

議　　長　それでは、議事(1)について委員から一人ずつご意見をお願いする。

委　　員　開館時間を30分早めることはいいと思う。私はあまり夕方に行かない。24時間図書館の無人部分開館については、25年前と今は時代が違うし、費用もかかるということだし、十分な検討結果として、しないで良いと思う。

委　　員　田万川地域におり、須佐図書館も時々利用させていただいている。宮内館長が説明されたように、開館時間の提案については実績に即しており、良いと思う。24時間については歴史があると思うが、かかる費用や利用者数を見ると、やめるというのはやむを得ないと思う。

委　　員　年別の利用者数等データ資料を揃えられていて、とても感心している。調査にもあるが、地域性によって利用される時間帯が異なるのは当然のこと。30分前倒しにするのは利用者にとって今後利用しやすくなる。24時間図書館というのは、大変なことだし、多額の費用をかけてまでする価値があるのか。電子図書館が普及していっているし、必要であれば調べれば良いし、24時間図書館をする必要はないと思う。

委　　員　24時間図書館について、資料を見ても続ける理由はないと思う。開館が早くなり、その分午前中に利用する方が増えて利用しやすくなるので良いと思う。

委　　員　萩市全体での予算が限られており、その予算の中でやりくりをしないといけない。現在、出身の川上地域で、施設の維持管理運用を含めての検討委員になっているが、予算が限られている中では、選択と集中が必要だとの説明があった。

24時間図書館も、限られた予算の中で運営をしていかないといけない。選択と集中の検討を固めた結果、個人的意見としては、正しい利用の仕方をされるのであれば運用は賛成だが、多額の費用をかけてまでかと考えると、廃止の方針で考えて良いと思う。代替案として電子図書館もあるので、それをしっかりと進めていくと良い。

議　　長　今回の資料が非常に分かりやすく、これを見ると24時間図書館を運用していくことは予算的にも、防犯上も難しいと思う。委員の意見をまとめると事務局から提案された方

向性で問題ない。

中村所長　早い時間から利用でき、遅い時間まで開館するというのが理想との考えもあるが、会計年度任用職員の募集をしても欠員が続いており、難しさの一つになっている。限られた人的資源の中で、しっかりと持続可能な図書館運営をしていくため、開館時間についてご理解をいただきたい。

教育長や私達も 24 時間図書館の歴史があり、再開を望む声もあるということは十分承知しており、経費をかけてでも、という思いも持ちつつ検討を開始した。しかし、本来安全安心であるべき社会教育施設の安全性への不安を払拭できず、苦渋の判断の中で再開を断念したいということとなった。そして、委員からは妥当な判断だというご意見をいただいた。

地域への説明も行っており、今後は、教育委員会会議でも説明し、朝の開館時間変更と 24 時間図書館の廃止について規則改正の手続きを進めていきたい。

ご意見に感謝する。

議　　長　議事は終わる。

５.その他

西山係長　令和 8 年度読書に親しむ活動推進事業実施要項について、プリントに沿って報告。

児童生徒の読書に対する肯定的評価は 58%（R7.12 月）から 67%（R8.7 月）に上がり、保護者の「子どもがよく本を読んでいる」という肯定的評価も 32%（R7.12 月）から 48%（R8.7 月）と着実に向上している。そういった中で日常の隙間時間に自発的に本を開く子どもの姿が増えており、成果が出ていると感じている。

数字の伸びだけにとどまらず、先生に言われたから借りるというような受動的な部分から、自分自身が読みたいという主体性を高めていき、子どもたちの読書活動を広げていくことが課題である。

教育長の挨拶の中でも出たが、SNS は低学年も使用している時代になっているので、そういったものではなく、読書というものにどんどん目を向けてもらえるような活動を今後も推進していけたらと思う。

佐々木館長　電子図書館においては、令和 8 年度への読み放題パックを導入し、各小中学校の児童・生徒・教員に ID とパスワードを付与し、利用促進を図っている。令和 8 年度の学校分の閲覧回数や貸出階数の統計を取っているが、学校によって利用度の違いがかなりあり、全く利用のない学校もある。中には電子図書館ではなくて、本で教育をしたいという学校もあるが、もし利用したいが、使い方が分からないという学校があれば、ご説明をし、さらに利用促進を図っていこうと思っている。

NPO 伊藤副理事長　イベント等のお知らせ。

「図書館まつり」、「法務局出張出前講座　相続と遺言」、「ビブリオバトルチャンプ本山口県大会」、「音読しましょう　第 3 回」、「悪者生物展の生き物絵本のおはなし会」、「萩古刹巡り」「見島公民館まつりでの読み聞かせ」について紹介。

10/17 の図書館まつりから、トイカプセル販売を開始する。NPO 職員がデザインしたほんほんの缶バッジ 6 種類やマスキングテープ 5 種類が入っている。ぜひコンプリートしてみていただきたい。

村木主任主事　「私たちがめざす須佐図書館」に近づけるよう職員一同、日々業務に努めている。昨年度は須佐・田万川地域の読書環境の充実に欠かすことができない、移動図書館まなぼう

号を購入、更新した。本年度は、地域初の公共施設での wi-fi 整備、個人用学習机の設置、窓側の閲覧スペースには快適にパソコンなどが使えるようコンセントを埋め込む工事など、ハード面でも快適な居心地の良い図書館作りを行った。
また、現在、須佐図書館の資料を活用した行事として、「子どもの生活と工藤直子さんの詩をつなげてみました展」の展示を行っている。育英小学校長の重永美津子先生が毎月発行する学校だよりに寄せた学校の様子と、詩人で童話作家の工藤直子さんの詩を合わせて紹介している企画展示となっている。 展示最終日なので、委員の皆様にもぜひご観覧いただきたい。

中村所長　今年は石巻市と萩市の友好都市の提携 10 周年だが、この都市交流のきっかけとなったのが川村孫兵衛という人物。毛利輝元に仕えた後に伊達政宗に仕えた土木技術者で、氾濫を繰り返していた北上川を改修整備した。それにより稲作ができる土地が増え、港が発達し、石巻市は水運の拠点になり繁栄した。小学校の副読本にもとりあげられているような人物で、萩の生まれである。萩市の子どもたちに、このように萩から外に出て活躍した人物がおり、その事績を知ってほしいという思いがあり、小中学校に孫兵衛さんキットというものを作って配布した。そういった取り組みをしていることをご承知いただきたい。

森岡副館長　次回第３回目の協議会は委員にとって 2 年任期の最後の協議会となる。日程が決まり次第連絡するので出席をお願いする。

６．閉会のことば（山本館長）

お忙しい中、ご出席いただき感謝する。事務局側ではあるが、須佐図書館は、今後の方針を数年前から色々と検討し、今日に至った。その過程に対して敬意を表したいと思う。皆様方、今後とも本に親しめる環境づくりにご協力をいただくことをお願いする。